

第28回健康生きがいづくりアドバイザー全国大会 11月13日(土) オンライン開催、全国238名と“つながる”

11月13日(土)の午後、令和3年度「第28回健康生きがいづくりアドバイザー全国大会」をオンライン開催しました。参加(視聴)いただいた皆さま、ありがとうございました。

新型コロナウイルス感染予防の観点から、Zoomを使用した初めてのオンラインによる全国大会として、これまで、地理的また日程等の問題で参加が難しかった多くの方にも参加(視聴)いただくことが出来ました。また、事前にオンラインテスト等PC環境の確認から当日のオンライン大会開催まで、今後の「with コロナ」に対応した新たな取り組みの一つとして、多くの経験を得ることが出来ました。今回の経験を皆さまと共有し、これまで以上に全国のアドバイザーと“つながり”、各種地域貢献活動の支援へ向けて情報交換・共有をすすめてまいります。

財団設立30周年記念大会として開催した今年の大会テーマは「人生100年時代、いのち輝く未来の創造に挑戦しよう!」。以下大会の様様を紹介します。

<開催要項>

- ◆ 大会テーマ : 「人生100年時代、いのち輝く未来の創造に挑戦しよう」
- ◆ 開催日時 : 令和3年11月13日(土)、13時～16時45分、オンライン開催 (Zoom)

時間	プログラム (進行: 大和 哲 (財団事務局))
12:00～	入場開始
13:00～13:15	開会挨拶 (財団概況含む) ————— 松浦 隆志 (財団常務理事)
13:15～13:45	1. 講話「人生100年時代における”健康生きがい”について」 辻 哲夫 (財団理事長、東京大学高齢社会総合研究機構客員研究員)
13:45～14:00	2. 財団設立30年の歩み ————— 藤村 宣之 (財団事務局長)
14:00～15:00	3. シンポジウムⅠ ————— 進行: 吉田 隆幸 (財団副理事長) 「人生100年時代に期待されるアドバイザー」 (1) 財団の基調説明 ————— 吉田 隆幸 (2) 若手アドバイザー活躍協議会報告 ————— オンライン参加 (3) 視聴者参加「意見交換」 ————— 2協議会から6名
15:00～15:10	休憩
15:10～16:10	4. シンポジウムⅡ ————— 進行: 小川 文男 (研究会事務局長) 「80歳からの生き方研究会」より (1) 研究会設立の経緯と経過報告 ————— 小川 文男 (2) 80歳からの生き方について ————— 青木 羊耳 (研究会座長) (3) 80歳超活躍アドバイザー2名、AD以外1名の発表 ————— オンライン参加3名 (4) 視聴者参加「意見交換」
16:10～16:30	5. 全体講評 — 國松 善次 (財団副理事長、健康・福祉総研理事長)
16:30～16:45	閉会挨拶 (事務連絡含む)

1. 開会挨拶 (財団概況含む) — 松浦隆志 (財団常務理事)

初めに松浦常務理事より、大会の主旨及びプログラム紹介に続いて、財団の概況について報告がありました。

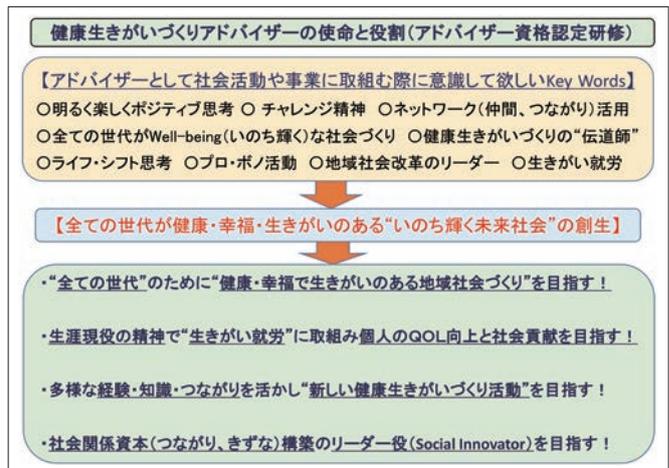


●日本の現状と健康生きがいづくりアドバイザー（以下、AD）の役割と使命

少子高齢化の伸展及び日本経済の長期停滞が続く中、新型コロナウイルス感染症の拡大は大きな問題として、現在も厳しい状況下にあります。今後経済の回復と感染予防の両立を図りながら、ウイズコロナ～ポストコロナ社会へ移行し、いかに少子高齢化時代の持続可能な社会・経済システムを構築できるかが、国・自治体そして私たち一人ひとりが考えるべき課題となっています。

こうした中、AD養成・認定研修の講義テーマ「アドバイザーの使命と役割」の中で、「すべての世代が健康・幸福・生きがいのある“いのち輝く未来社会”の創成」のために目指すべき方向性として、ADが社会活動や事業に取り組む際に意識すべき4点を整理しています。

①すべての世代の為に健康・幸福で生きがいのある地域社会づくりを目指す、②生涯現役の精神で「生きがい就労」に取り組み、個人のQOL向上と社会貢献を目指す、③多様な経験・知識・つながりを活かし「新しい健康生きがいづくり活動」を実践し、④社会関係資本（つながり、きずな）構築のリーダー役（Social Innovator）となる。



●財団の現状とこれから

2021年3月時点でのAD資格認定者は6,000名を超え、登録ADは3,800人、全国の健生AD協議会は36。ADの平均年齢は70歳を超え高齢化が顕著となり、新規AD登録者増が喫緊の課題として挙げられます。解決へ向けた方針として、AD登録者の拡大と健生AD協議会の世代交代を目標に、2018年に新5か年計画を策定。AD養成事業を再構築しAD登録者の拡大を図るとともに、フレイル予防事業、100歳大学普及推進の主要3事業の展開による、経営基盤の安定化を目指しています。

AD養成事業については、新テキスト「人生100年時代の次のステージへ」を改訂発行するとともに、Webを活用したオンライン研修の導入等により受講しやすい環境の整備をすすめます。また、「フォローアップ・スキルアップ研修」「シニア向け資格取得支援講座」及び「80歳からの生き方研究会」が開発する「人生100年時代・サードライフ充実講座」の定期開催等、AD認定者への継続的な支援にも力を入れていきたいと考えています。

フレイル予防事業は、東京大学高齢社会総合推進機構（IOG）との連携により、全国でのフレイルチェック活動は82市町村（12月末現在）まで広がっており、さらなる全国の市町村への導入支援をすすめ、ADがフレイルトレーナー・サポーターとして指導的役割を果たすとともに、健生AD協議会での取り組みを期待しています。なお、フレイル予防についての新しい知識の習得には、IOGのHPから「フレイルチェックニュースレター」や「住民主体活動推進マニュアル」等のダウンロードが可能です。

園松副理事長が提唱する「100歳大学」については、既に滋賀県栗東市で開校しており、今年和歌山市と新潟県長岡市において「プレ100歳大学」が開催され、本格導入へ向けた第一歩がスタートしました。今後「100歳大学普及推進勉強会」を定期的に開催し、導入自治体増を目指していく予定です。（P12に関連記事）

今後も、新しい生活様式に適応した方法で各種事業を推進するとともに、財団や全国の健生AD協議会の資源を有効活用し、さまざまな取り組みをすすめていく予定です。すべての世代が健康で豊かな生きがいのある人生を送れる社会を目標に、ADの英知とパワーを結集して、一人ひとりの「いのち輝く未来の創造」を目指し、新たな気持ちで健康生きがいづくり活動に取り組んでいきましょう。

主要事業【100歳大学普及事業】

(1) 100歳大学の概要

- ①園松副理事長の発案・提唱
 - ・元滋賀県知事(2期)
 - ・現在の健康福祉総研理事長
- ②滋賀県栗東市(2015年)、湖南市(2017年)で開始
 - 甲賀市、野洲市、守山市(2021年)開講予定
 - ③各自治体から運営全般を自治体より受託する方式
 - ・自治体⇒健康福祉総研⇒NPO滋賀健生協議会(運営)
- ④修了生⇒地域活動のリーダー、滋賀健生ADとして活動
- ⑤園松副理事長 全国各地で講演、メディア寄稿多数

(2) 全国協議会で地元自治体への普及活動推進

- ①100歳大学普及の手引き(右写真) 協議会で勉強会
- ②2019年滋賀県AD全国大会にて特別シンポジウム開催
- ③複数の協議会が取組み中(後述)

【100歳大学普及勉強会計画案(園松副理事長)】

- ・全国ADを主な対象にオンライン勉強会を実施
- ・今年12月中旬に第1回を計画(近日中に公表)

色々の義務教育を目指して
100歳大学普及の手引

100歳大学普及推進委員会